

資料 6

第1回緊急臨時的医師派遣の実施状況

第1回緊急臨時的医師派遣の実施について

1. 経緯

- 本年5月31日、政府・与党において取りまとめられた「緊急医師確保対策」に基づき、医師不足地域に対して、都道府県からの求めに応じ、国レベルで緊急臨時的に医師派遣を行う体制を整備。

2. 医師派遣の決定及び実施

- 上記を踏まえ、6月11日に開催された「地域医療支援中央会議」において、緊急臨時的医師派遣の枠組みが了承され、6月26日に開催された「地域医療支援中央会議幹事会」において、関係団体等の協力のもと、第1回の医師派遣が決定。
- 医師派遣については、7月1日栃木県・大田原赤十字病院への内科医の派遣を皮切りに、北海道、岩手、和歌山、大分の6病院すべてについて、派遣を実施。

3. 派遣医師への対応

- 6月27日に、総理官邸において総理出席のもと、激励会を実施。さらに、赴任前に医政局長から激励。
- 派遣先病院における勤務状況等については、適宜フォローアップ。
- 今後、派遣医師、派遣元病院及び派遣元団体に対して、大臣による感謝状の授与を予定。

(経緯)

- 平成18年 8月31日 地域医療に関する関係省庁連絡会議の開催
(新医師確保総合対策により、地域医療支援中央会議の設置が盛り込まれる)
- 平成18年12月21日 地域医療支援中央会議準備会合の開催
- 平成19年 3月 9日 医師確保支援チームの設置
(厚生労働大臣の指示により、関係省庁の担当者による支援チームを設置)
- 平成19年 4月10日 平成19年度第1回地域医療支援中央会議の開催
- 平成19年 5月31日 政府・与党「緊急医師確保対策について」が決定
- 平成19年 6月11日 平成19年度第2回地域医療支援中央会議及び第1回同幹事会の開催
(国が中心となって緊急臨時的医師派遣に取り組むことが確認される)
- 平成19年 6月26日 平成19年度第2回地域医療支援中央会議幹事会の開催
(第1回緊急臨時的医師派遣の実施が決定)
- 平成19年 6月27日 派遣医師等に対して総理大臣による激励会の実施
- 平成19年 7月 1日 栃木県・大田原赤十字病院への派遣を皮切りに、第1回医師派遣を順次実施

第1回 緊急臨時的医師派遣の実施状況について

平成19年10月25日現在

No.	都道府県		病院名	要請診療科	派遣状況
	都道府県	後志			
1	北海道	後志	北海道社会事業協会 岩内病院	内科	派遣元: 全国社会保険協会連合会(中京病院等) 診療科: 内科医等1名 (ローテート方式) 派遣日: 7月29日~2月2日 6ヶ月間
2	岩手県	気仙	県立大船渡病院	循環器科	派遣元: 国立病院機構(東京医療センター等) 診療科: 循環器科医1名 (ローテート方式) 派遣日: 8月5日~10月27日 3ヶ月間
3		宮古	県立宮古病院	循環器科	派遣元: 日本赤十字社(盛岡赤十字病院) 診療科: 循環器科医1名 (ローテート方式) 派遣日: 7月3日~12月25日 週1回、6ヶ月間 派遣元: 恩賜財団済生会(横浜市東部病院) 診療科: 循環器科医1名 (ローテート方式) 派遣日: 8月17日~11月30日 3ヶ月間 (10月6日以降週1日)
4	栃木県	県北	大田原赤十字病院	内科 小児科 産婦人科	派遣元: 日本赤十字社(日本赤十字社医療センター) 診療科: 内科医1名 (ローテート方式) 派遣日: 7月1日~12月31日 6ヶ月間
5	和歌山県	新宮	新宮市立医療センター	産婦人科	派遣元: 応募医師 診療科: 産婦人科医1名 派遣日: 9月1日~2月末予定 6ヶ月間
6	大分県	竹田直入	竹田医師会病院	内科	派遣元: 日本医科大学 診療科: 救急医(内科)1名 派遣日: 8月1日~1月31日 6ヶ月間

緊急臨時的医師派遣経過報告書

1 派遣の概要

- (1) 都道府県名：北海道
- (2) 二次医療圏名：後志
- (3) 派遣先医療機関開設者名：社会福祉法人北海道社会事業協会
- (4) 派遣先医療機関名：社会福祉法人北海道社会事業協会 岩内病院
- (5) 派遣先医療機関の所在地：北海道岩内郡岩内町字高台209番2
- (6) 派遣元医療機関開設者名：社団法人全国社会保険協会連合会
- (7) 派遣医師所属医療機関名：
- (8) 派遣期間：
- (9) 派遣された診療科名及び人数：

} 下記のとおり

(実績)

(7) 派遣医師所属医療機関名	(8) 派遣期間	(9) 派遣された診療科名及び人数
社会保険中京病院	7/29~8/4	消化器科・内科 1名
北海道社会保険病院	8/5~8/11	呼吸器科 1名
札幌社会保険総合病院	8/12~8/18	内科・呼吸器科・膠原病・血液腫瘍 1名
社会保険中京病院	8/19~9/1	循環器科 1名
総合病院社会保険徳山中央病院	9/2~9/8	血液・内分泌内科 1名
社会保険滋賀病院	9/9~9/15	内科・消化器科・健診 1名
社会保険滋賀病院	9/16~9/22	循環器内科 1名
社会保険群馬中央病院	9/23~9/29	循環器科 1名
社会保険中央病院	9/30~10/6	内科 1名
社会保険徳山中央病院	10/7~10/13	循環器内科 1名
社会保険滋賀病院	10/14~10/20	内科 1名
社会保険桜ヶ丘病院	10/21~11/3	内科 1名

(予定)

北海道社会保険病院	11/4~11/10	内科 1名
東北厚生年金病院	11/11~11/17	(調整中) 1名
札幌社会保険病院	11/18~11/24	(調整中) 1名
健康保険諫早病院	11/25~12/8	内科 1名
健康保険諫早病院	12/9~12/22	内科 1名
社会保険岐阜病院	12/23~12/29	(調整中) 1名
社会保険岐阜病院	1/6~1/19	(調整中) 1名
社会保険久留米第一病院	1/20~2/2	内科 1名

2 派遣先医療機関の現況及び医師派遣の効果

内科医が常勤（1名）体制となり、入院・外来診療について、ともに患者数が従前と比べて増加したほか、次の効果が認められる。

（1）外来診療

- ・内科医師の常勤により、他の診療科との連携がスムーズになり、短期間で的確な診断が可能になってきている。
- ・内科外来の待ち時間の短縮及び、夜間・休日など急患への対応も可能となっている。

（2）入院診療

- ・近隣の医療機関からの紹介患者も含め、入院患者を受け入れることができ、また、病棟回診もきめ細かに行うことができた。

（3）その他

- ・健康診断も可能となり、病院収益に効果をもたらしている。
- ・病院職員の志気が高まり、病院全体で地域医療に取り組む姿勢が出てきている。

3 派遣医師の診療状況等

期 間	外来延数	新入院数	1日平均入院数			備 考
			内科病棟	療養病棟	計	
7/29~8/4	140	6	40.3	41.6	81.9	胃が5 4件、大腸が5 2件、腸が5 1件
8/5~8/11	163	9	38.7	43.6	82.3	
8/12~8/18	166	8	36.9	41.7	78.6	IVH挿入 5件
8/19~9/1	437	21	37.0	44.1	81.1	
9/2~9/8	222	5	29.1	45.6	74.7	
9/9~9/15	191	14	33.7	46.3	80.0	胃が5 6件、大腸が5 1件
9/16~9/22	173	6	39.4	49.6	89.0	
計	1,492	69	36.5	44.6	81.1	

4 都道府県の支援策

- ・医療対策協議会において、自治体病院等連携構想を策定中
- ・当該地域市町村における医療連携協議
- ・自治体病院等連携構想策定後の連携区域において、地域医療アドバイザーの活用を視野に入れた具体的な協議

5 派遣決定後に実施した医師確保策

(1) 派遣先医療機関

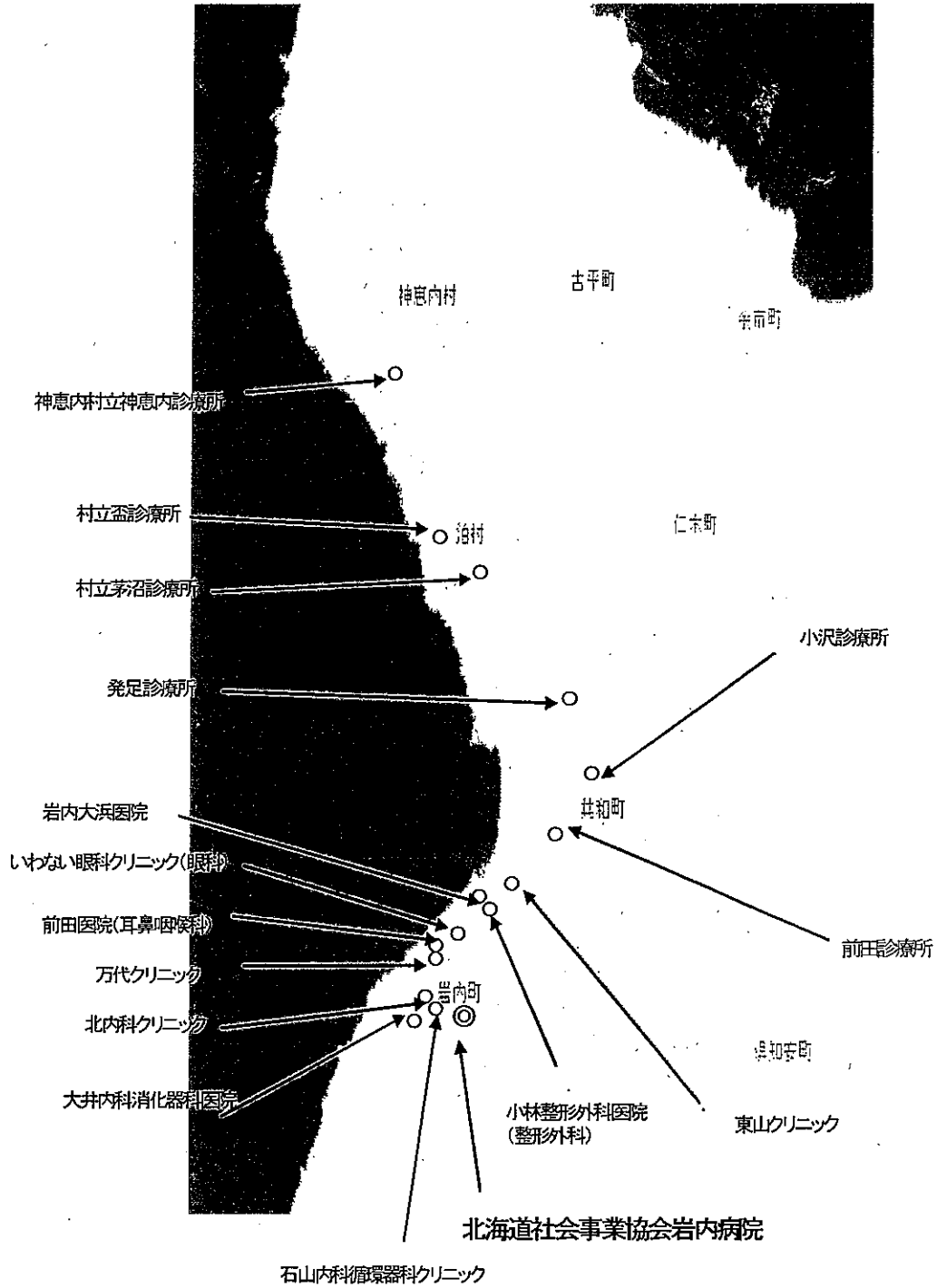
- ・内科医師2名の招聘に向けて交渉を継続中
- ・循環器内科出張医の回数増加(月1回→2回へ)
- ・整形外科医師9月採用により整形外科診療を再開
- ・ホームページ、医師紹介ネットなどを利用した医師募集は継続中
- ・医療機能及び医療資源の見直しは、当面、従前の機能を継続する。

(2) 都道府県医療対策協議会等

- ①派遣先医療機関の医師確保に関するアクションプランに対する支援状況
地域医療振興財団のドクターバンクを通じた勤務医師の募集や登録医に対する勤務の働きかけ。
- ②派遣先医療機関の医療機能及び医療資源の見直しに対する支援状況
派遣先医療機関の所管保健所と周辺の市町村による連絡会議を開催し、支援・連携について協議を進めているところ。
- ③医療対策協議会による当該医療圏・地域の医療連携体制の構築状況
医療対策協議会自治体病院等広域化検討分科会において、自治体病院等連携構想を策定中であり、当該圏域については、患者受療動向、中核病院、地理的關係などを踏まえて、1市13町6村で構成される圏域の内、派遣先医療機関を中核病院とする3町3村による連携区域を設定し、地域での具体的な広域化・連携体制の検討を進める予定。

岩宇圏域医療体制図

平成19年9月30日現在



緊急臨時的医師派遣経過報告書

1 派遣の概要

- (1) 都道府県名：岩手県
- (2) 二次医療圏名：気仙医療圏
- (3) 派遣先医療機関開設者名：岩手県
- (4) 派遣先医療機関名：岩手県立大船渡病院
- (5) 派遣先医療機関の所在地：岩手県大船渡市大船渡町字山馬越 10 番地 1
- (6) 派遣元医療機関開設者名：独立行政法人国立病院機構
- (7) 派遣医師所属医療機関名：(9) のとおり
- (8) 派遣期間：平成 19 年 8 月 6 日から平成 19 年 10 月 26 日
- (9) 派遣された診療科名及び人数

派遣期間 (移動日を含む)	所属医療機関名	診療科名	人数
8月5日～ 8月11日	東京医療センター	循環器科	1人
8月19日～ 8月25日	名古屋医療センター	循環器科	1人
8月26日～ 9月1日	大阪医療センター	循環器科	1人
9月2日～ 9月8日	岩国医療センター	循環器科	1人
9月9日～ 9月15日	函館病院	循環器科	1人
9月17日～ 9月22日	高崎病院	循環器科	1人
9月24日～ 9月29日	長崎医療センター	循環器科	1人
9月30日～ 10月6日	名古屋医療センター	循環器科	1人
10月8日～ 10月13日	京都医療センター	循環器科	1人
10月14日～ 10月20日	岡山医療センター	循環器科	1人
10月21日～ 10月27日	九州医療センター	循環器科	1人

2 派遣先医療機関の現況及び医師派遣の効果

循環器科の外来診療は中止していることから、他科での外来受診患者及び入院患者の循環器疾患並びに救急患者の循環器疾患の診療や来院患者のコンサルティング等を行っており、また、入院を要する患者については搬送に1時間程度を要する近隣の医療圏（釜石 約40km、宮城県の気仙沼 約50km）や約2時間を要する盛岡医療圏（約100km）に搬送している。

循環器科医師が派遣されたことにより、循環器疾患で来院する救急患者等の診療について、循環器科医師を呼び出しての診療や直接アドバイスを受けることもでき、大船渡病院の勤務医にとって安心感がある。

3 派遣医師の診療状況等

月曜日から金曜日（当直なし）

- ・ 他科での外来患者及び入院患者の循環器疾患の診療
- ・ 救急患者の循環器疾患の診療
- ・ 来院患者のコンサルティング

4 都道府県の支援策

地域医療支援アドバイザーの派遣要請

5 医師派遣決定後に実施した医師確保策

(1) 派遣先医療機関

① 医師確保に関する行動計画の実施状況等

ア 魅力ある病院づくり

大学医学部及び他の県立病院等と連携して医師の研修・教育体制を充実させるなど、より魅力ある病院づくりに取り組んでいる。

イ 勤務環境の改善

医師の過重労働の軽減を図るために、検査技師等のコ・メディカルとの業務分担の見直し及びメディカル・クラークの導入など、勤務環境の改善のために必要な予算措置を検討している。

ウ 医師確保施策の活用・実施

関係大学に対して粘り強く医師派遣要請を続けている。

エ 求人情報の発信

当院のホームページ、医学雑誌、民間医師募集サイトなどの情報媒体を活用し、当院の医師募集について広く周知を図っている。

② 医療機能・医療資源の見直し及び近隣医療機関との連携等による見直しの実施状況

ア 当院の循環器科は、派遣元の大学において隣の釜石保健医療圏に医療機能を集約したものであるが、救命救急センターを併設していることから、引き続き派遣元大学へ粘り強く要請に努めていく。

イ 圏域の市町、地元医師会、大船渡病院医療体制充実対策協議会等と協力・連携しながら医師招聘を進めており、また、診療所との機能分担や連携、地域住民の適切な受診行動への啓発を図っているなど、圏域の医療提供体制の構築と調整を進めている。

(2) 県及び地域医療対策協議会

① 「岩手県医師確保対策アクションプラン」に基づく総合的な医師確保対策の取組みを展開している。

- ② 昨年９月に保健福祉部と医療局が共管組織として設けた医師確保対策室の活動等により、広く県内外からの医師招聘に努めている。
- ③ 地域医療アドバイザーの派遣を要請し、岩手県地域医療支援機構で対応協議を予定している。

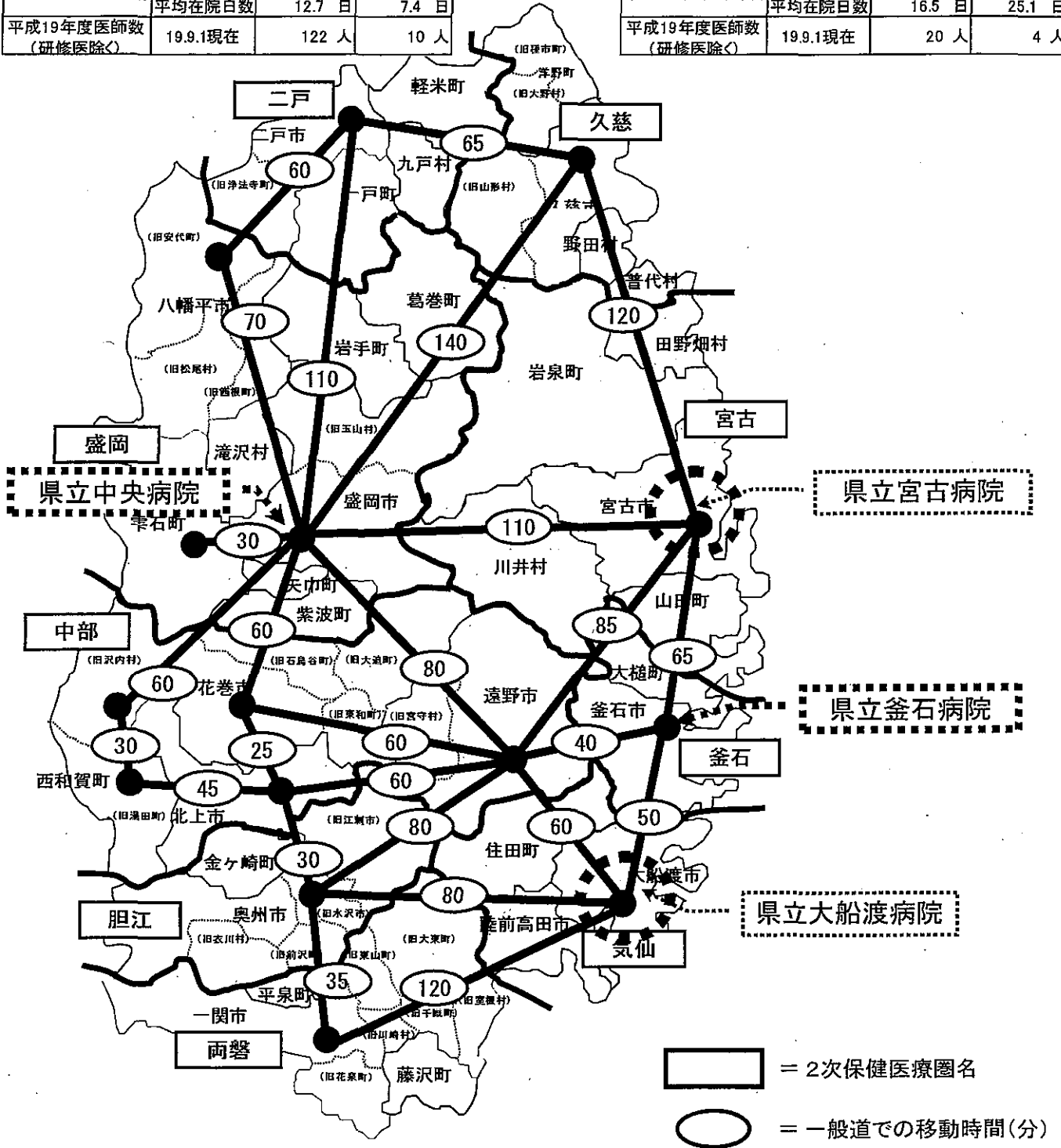
転送先医療機関の状況

■ 県立中央病院の状況

	全体	循環器科	
平成18年度実績	入院患者数	231,766 人	16,404 人
	外来患者数	286,351 人	13,240 人
	病床数	730 床	43 床
	心カテ件数		1,357 件
平成19年8月末累計	病床利用率	83.2 %	103.4 %
	平均在院日数	12.7 日	7.4 日
平成19年度医師数 (研修医除く)	19.9.1現在 122 人	10 人	

■ 県立釜石病院の状況

	全体	内科	
平成18年度実績	入院患者数	89,632 人	17,633 人
	外来患者数	168,810 人	26,544 人
	病床数	272 床	48 床
	心カテ件数		157 件
平成19年8月末累計	病床利用率	83.8 %	91.1 %
	平均在院日数	16.5 日	25.1 日
平成19年度医師数 (研修医除く)	19.9.1現在 20 人	4 人	



緊急臨時的医師派遣経過報告書

1 派遣の概要

- (1) 都道府県名：岩手県
- (2) 二次医療圏名：宮古医療圏
- (3) 派遣先医療機関開設者名：岩手県
- (4) 派遣先医療機関名：岩手県立宮古病院
- (5) 派遣先医療機関の所在地：岩手県宮古市崎鍬ヶ崎第1地割11番地26
- (6) 派遣元医療機関開設者名：社会福祉法人恩賜財団済生会
- (7) 派遣医師所属医療機関名：社会福祉法人恩賜財団済生会横浜市東部病院
- (8) 派遣期間：平成19年8月17日から平成19年10月5日、
10月19日(金)、11月2日(金)、11月9日(金)、11月30日(金)
- (9) 派遣された診療科名及び人数

派遣期間 (移動日を含む)	所属医療機関名	診療科名	人数
8月17日、 8月20日～ 8月22日	済生会横浜市東部病院	循環器科	1人
8月23日～ 8月24日		循環器科	1人
8月27日～ 8月31日		循環器科	1人
9月3日～ 9月7日、 9月10日～ 9月14日		循環器科	1人
9月18日～ 9月21日		循環器科	1人
9月25日～ 9月28日		循環器科	1人
10月1日～ 10月3日		循環器科	1人
10月3日～ 10月5日		循環器科	1人
10月19日		循環器科	1人
11月2日、 11月9日、 11月30日		循環器科	1人

2 派遣先医療機関の現況及び医師派遣の効果

循環器科の外来診療は中止していることから、他科での外来受診患者及び入院患者の循環器疾患並びに救急患者の循環器疾患の診療や来院患者のコンサルティング等を行っており、また、入院を要する患者については搬送に2時間程度を要する盛岡医療圏(約100km)に搬送している。

循環器科医師が派遣されたことにより、循環器疾患で来院する救急患者等の診療について、循環器科医師を呼び出しての診療や直接アドバイスを受けることもでき、宮古病院の勤務医にとって安心感がある。

3 派遣医師の診療状況等

月曜日から金曜日（当直なし）

- ・ 他科での外来患者及び入院患者の循環器疾患の診療
- ・ 救急患者の循環器疾患の診療
- ・ 来院患者のコンサルティング

4 都道府県の支援策

地域医療支援アドバイザーの派遣要請

5 医師派遣決定後に実施した医師確保策

(1) 派遣先医療機関

① 医師確保に関する行動計画の実施状況等

ア 魅力ある病院づくり

大学医学部及び他の県立病院等と連携して医師の研修・教育体制を充実させるなど、より魅力ある病院づくりに取り組んでいる。

イ 勤務環境の改善

医師の過重労働の軽減を図るために、検査技師等のコ・メディカルとの業務分担の見直し及びメディカル・クラークの導入など、勤務環境の改善のために必要な予算措置を検討している。

ウ 医師確保施策の活用・実施

関係大学に対して粘り強く医師派遣要請を続けている。

エ 求人情報の発信

当院のホームページ、医学雑誌、民間医師募集サイトなどの情報媒体を活用し、当院の医師募集について広く周知を図っている。

② 医療機能・医療資源の見直し及び近隣医療機関との連携等による見直しの実施状況

ア 当院の循環器科は、盛岡市まで約2時間程度を要することから、他の県立病院から応援を得ているところであるが、引き続き派遣元大学へ粘り強く要請に努めていく。

イ 圏域の市町村、地元医師会等と協力・連携しながら医師招聘を進めており、また、診療所との機能分担や連携を図っているなど、圏域の医療提供体制の構築と調整を進めている。

(2) 県及び地域医療対策協議会

- ① 「岩手県医師確保対策アクションプラン」に基づく総合的な医師確保対策の取組みを展開している。
- ② 昨年9月に保健福祉部と医療局が共管組織として設けた医師確保対策室の活動等により、広く県内外からの医師招聘に努めている。
- ③ 地域医療アドバイザーの派遣を要請し、岩手県地域医療支援機構で対応協議を予定している。

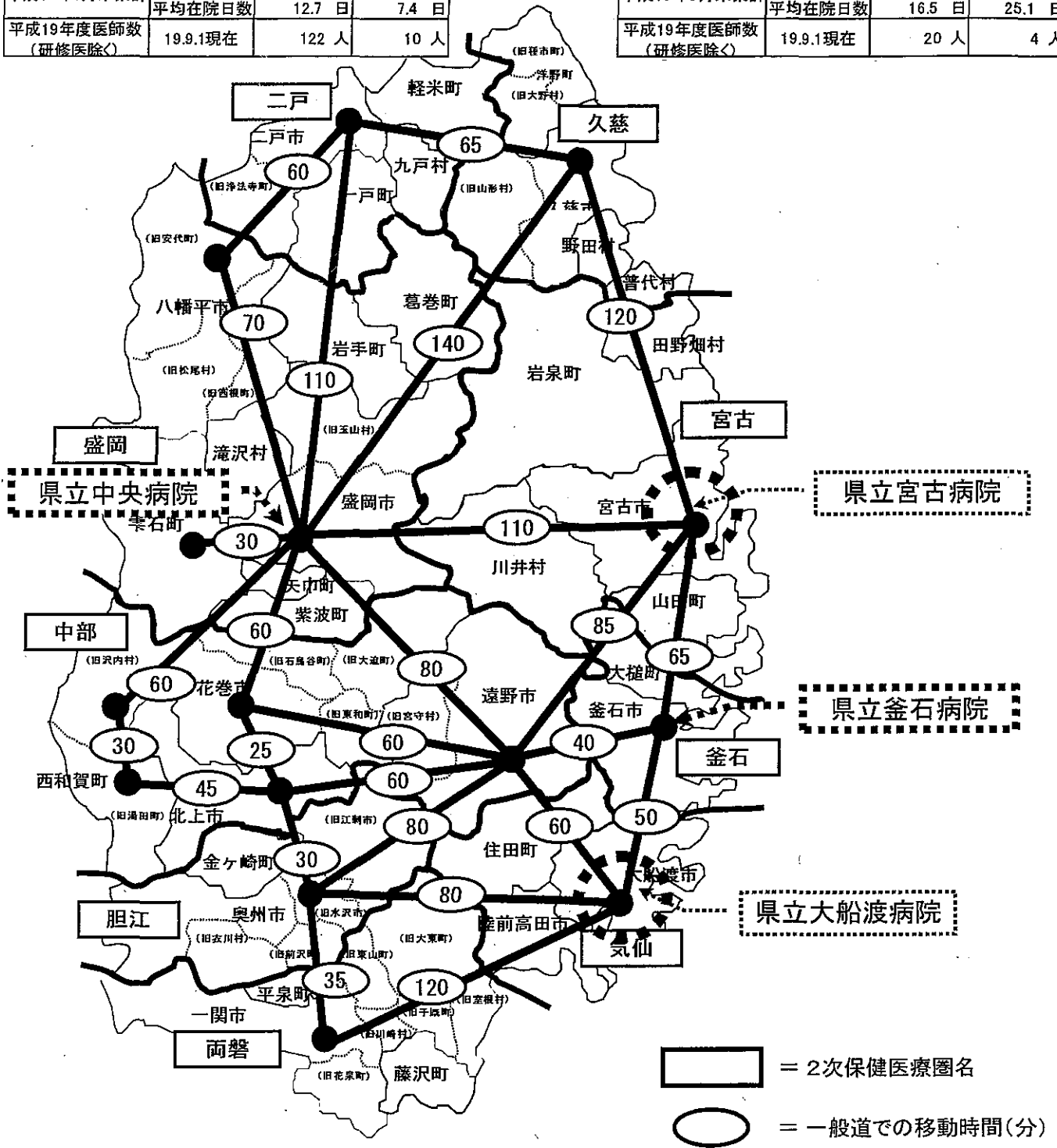
転送先医療機関の状況

■ 県立中央病院の状況

	全体	循環器科	
平成18年度実績	入院患者数	231,766 人	16,404 人
	外来患者数	286,351 人	13,240 人
	病床数	730 床	43 床
	心カテ件数		1,357 件
平成19年8月末累計	病床利用率	83.2 %	103.4 %
	平均在院日数	12.7 日	7.4 日
平成19年度医師数 (研修医除く)	19.9.1現在	122 人	10 人

■ 県立釜石病院の状況

	全体	内科	
平成18年度実績	入院患者数	89,632 人	17,633 人
	外来患者数	168,810 人	26,544 人
	病床数	272 床	48 床
	心カテ件数		157 件
平成19年8月末累計	病床利用率	83.8 %	91.1 %
	平均在院日数	16.5 日	25.1 日
平成19年度医師数 (研修医除く)	19.9.1現在	20 人	4 人



緊急臨時的医師派遣経過報告書

1 派遣の概要

- (1) 都道府県名：岩手県
- (2) 二次医療圏名：宮古医療圏
- (3) 派遣先医療機関開設者名：岩手県
- (4) 派遣先医療機関名：岩手県立宮古病院
- (5) 派遣先医療機関の所在地：岩手県宮古市崎鍬ヶ崎第1地割11番地26
- (6) 派遣元医療機関開設者名：日本赤十字社
- (7) 派遣医師所属医療機関名：盛岡赤十字病院
- (8) 派遣期間：平成19年7月3日から平成19年12月25日
- (9) 派遣された診療科名及び人数

派遣期間 (移動日を含む)	所属医療機関名	診療科名	人数
7月3日	盛岡赤十字病院	循環器科	1人
7月10日		循環器科	1人
7月31日		循環器科	1人
8月21日		循環器科	1人
8月28日		循環器科	1人
9月4日		循環器科	1人
9月18日		循環器科	1人
9月25日		循環器科	1人
10月9日		循環器科	1人
10月16日		循環器科	1人
10月23日		循環器科	1人
10月30日		循環器科	1人
11月6日		循環器科	1人
11月13日		循環器科	1人
11月20日		循環器科	1人
11月27日		循環器科	1人
12月4日		循環器科	1人
12月11日	循環器科	1人	
12月18日	循環器科	1人	
12月25日	循環器科	1人	

2 派遣先医療機関の現況及び医師派遣の効果

循環器科の外来診療は中止していることから、他科での外来受診患者及び入院患者の循環器疾患並びに救急患者の循環器疾患の診療や来院患者のコンサルティング等を行っており、また、入院を要する患者については搬送に2時間程度を要する盛岡医療圏（約100km）に搬送している。

循環器科医師が派遣されたことにより、循環器疾患で来院する救急患者等の診療について、循環器科医師を呼び出しての診療や直接アドバイスを受けることもでき、宮古病院の勤務医にとって安心感がある。

3 派遣医師の診療状況等

原則毎週火曜日（当直なし）

- ・ 他科での外来患者及び入院患者の循環器疾患の診療
- ・ 救急患者の循環器疾患の診療
- ・ 来院患者のコンサルティング

4 都道府県の支援策

地域医療支援アドバイザーの派遣要請

5 医師派遣決定後に実施した医師確保策

(1) 派遣先医療機関

① 医師確保に関する行動計画の実施状況等

ア 魅力ある病院づくり

大学医学部及び他の県立病院等と連携して医師の研修・教育体制を充実させるなど、より魅力ある病院づくりに取り組んでいる。

イ 勤務環境の改善

医師の過重労働の軽減を図るために、検査技師等のコ・メディカルとの業務分担の見直し及びメディカル・クランクの導入など、勤務環境の改善のために必要な予算措置を検討している。

ウ 医師確保施策の活用・実施

関係大学に対して粘り強く医師派遣要請を続けている。

エ 求人情報の発信

当院のホームページ、医学雑誌、民間医師募集サイトなどの情報媒体を活用し、当院の医師募集について広く周知を図っている。

② 医療機能・医療資源の見直し及び近隣医療機関との連携等による見直しの実施状況

ア 当院の循環器科は、盛岡市まで約2時間程度を要することから、

他の県立病院から応援を得ているところであるが、引き続き派遣元大学へ粘り強く要請に努めていく。

イ 圏域の市町村、地元医師会等と協力・連携しながら医師招聘を進めており、また、診療所との機能分担や連携を図っているなど、圏域の医療提供体制の構築と調整を進めている。

(2) 県及び地域医療対策協議会

- ① 「岩手県医師確保対策アクションプラン」に基づく総合的な医師確保対策の取組みを展開している。
- ② 昨年9月に保健福祉部と医療局が共管組織として設けた医師確保対策室の活動等により、広く県内外からの医師招聘に努めている。
- ③ 地域医療アドバイザーの派遣を要請し、岩手県地域医療支援機構で対応協議を予定している。

緊急臨時的医師派遣経過報告書

1 派遣の概要

- (1) 都道府県名：栃木県
- (2) 二次医療圏名：県北保健医療圏
- (3) 派遣先医療機関開設者名：日本赤十字社栃木県支部長 福田富一
- (4) 派遣先医療機関名：大田原赤十字病院
- (5) 派遣先医療機関の所在地：栃木県大田原市住吉町2-7-3
- (6) 派遣元医療機関開設者名：日本赤十字社 社長 近衛忠輝
- (7) 派遣医師所属医療機関名：日本赤十字社医療センター
- (8) 派遣期間：①平成19年7月1日～8月31日
 ②平成19年9月1日～10月31日
 ③平成19年11月1日～12月31日（予定）
- (9) 派遣された診療科名及び人数：①内科 1名
 ②内科 1名
 ③内科 1名（予定）

2 派遣先医療機関の現況及び医師派遣の効果

(1) 大田原赤十字病院の現況

- ① 常勤の内科医数（緊急臨時的医師派遣を含む。）は、10月1日現在で9名、うち当直可能医師数は7名である。
- ② 救命救急センター（当該医療圏で唯一）の運営においては、2次、3次を中心としてかろうじて救急医療を維持しているところであるが、医師引き揚げにより重大な支障が生じるおそれがある。

(2) 医師派遣の効果

今年7月からの派遣であるため、これまでに入院患者数、外来患者数には大きな変化は生じていないが、円滑な病院診療業務の維持が可能になっている。特に8月以降は、医師引き揚げ（3名から1名に減）による影響をカバーする役割も果たしている。

3 派遣医師の診療状況等

内科全般領域の診断治療業務に従事しており、入院診療を連日行うとともに、週2回（応援を含む）の外来診療、月4回の宿日直を行っている。

4 栃木県の支援策

- ・大田原赤十字病院の内科では、緊急臨時的医師派遣後においても、医師引き揚げ等が続いており、救命救急センターの運営に重大な支障が生じるおそれがあるため、大田原赤十字病院と今後の対応について協議を行うとともに、大学への支援要請を大田原赤十字病院、日本赤十字社とともにやっている。
- ・内科医を対象とした確保策として、平成17年度からドクターバンク事業、平成18年度から後期研修医に対する研修資金貸与事業に取り組んでいる。
- ・また、栃木県の平成20年度政策経営基本方針において、「地域医療の確保」を重点施策に位置づけ、引き続き課題解決に積極的に取り組んでいくこととしている。
- ・さらに今年度、栃木県議会に「地域医療対策特別委員会」が設置され、地域医療提供体制の充実及び医師等の確保対策について調査研究が行われている。

5 医師派遣決定後に実施した医師確保策

(1) 大田原赤十字病院の取組

① 医師派遣終了後の医師確保に関するアクションプランの実施状況

ア 魅力ある病院づくり

- ・新たに内科など10診療科で専門医養成のための後期研修プログラムを作成・提供
- ・女性医師が働きやすい職場環境の整備
- ・病院の移転整備に向けた調整に着手

イ 処遇改善

- ・日当直料の改訂
- ・当直翌日の過重労働軽減策としての非常勤医師の活用

ウ 医師確保施策の実施

- ・日本赤十字社本社、県内外の医療機関等への医師派遣要請を引き続き実施
- ・地元医療機関等による外来診療の応援

エ 求人情報の発信

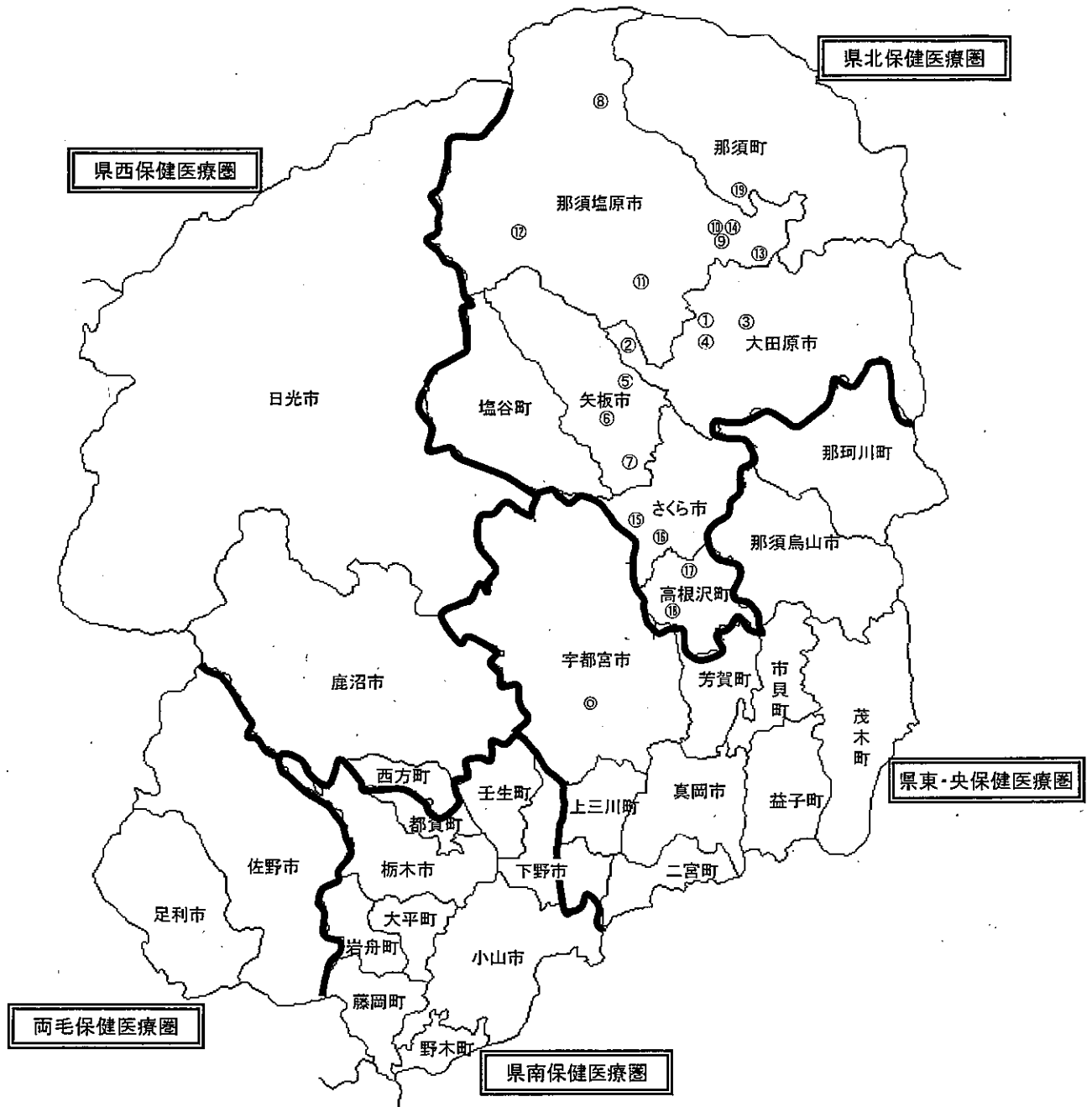
- ・ホームページに医師募集情報、後期研修医募集情報を掲載
- ・後期研修医確保のための合同セミナーに出展
- ・人材紹介コンサルティング契約、求人広告等の掲載

- オ 関係自治体、大学等との連携・調整
 - ・栃木県に対し、医師派遣要請への協力、自治医科大学卒業医師の派遣継続を要望
 - ・県内外の大学に対し、常勤医師の派遣、非常勤医師による応援を要請
- カ 奨学金制度の導入
 - ・病院独自の医学生修学資金制度について県内高校等に周知
- ② 医療機能・医療資源の見直し及び近隣医療機関との連携等による見直しの実施状況
 - ア 院内助産所の整備
 - ・助産師を主体とした院内助産所（助産師外来）を整備中
 - イ 地域医療支援病院としての取組
 - ・近隣医療機関との連携を進める連携パスの運用に向けて準備・検討中
 - ウ 病診連携ネットワークシステムの導入
 - ・地域医療機関との連携強化のため、診療情報をリアルタイムに紹介元施設が参照できるシステムの導入に向けて準備中

(2) 栃木県の取組

- ① 派遣先医療機関の医師確保に関するアクションプランに対する支援状況
 - ・医師派遣要請を大田原赤十字病院等とともに実施
 - ・県ホームページに医師募集情報を掲載
 - ・研修医確保のための合同セミナー出展等を助成
 - ・全国の医学生を対象とした修学資金貸与制度を新設
- ② 派遣先医療機関の医療機能及び医療資源の見直しに対する支援状況
 - ・緊急分娩体制（施設・設備）整備事業により、院内助産所（助産師外来）の整備を助成
 - ・ハイリスク分娩受入の協力病院に指定し、ハイリスク分娩実施件数に応じて助成を実施
- ③ 医療対策協議会による当該医療圏・地域の医療連携体制の構築状況
 - ・本県の医療連携体制の構築は、第5期保健医療計画の策定において検討を行う。
 - ・医療対策協議会で検討を行った結果、本県においては、産科及び小児科の集約化・重点化は困難な状況との結論に至った。

医療提供施設の現状図【栃木県】



県北保健医療圏内病院名			
① 大田原赤十字病院	⑥ 塩谷総合病院	⑪ 国際医療福祉大学病院	⑬ 黒須病院
② 那須中央病院	⑦ 矢板南病院	⑫ 栃木県医師会附属塩原温泉病院	⑭ 菅又病院
③ なす療育園	⑧ 板室温泉病院	⑬ 那須脳神経外科病院	⑮ 高根沢中央病院
④ 室井病院	⑨ 菅間記念病院	⑭ 福島整形外科病院	⑯ 那須高原病院
⑤ 佐藤病院	⑩ 黒磯病院	⑮ 氏家病院	

緊急臨時的医師派遣経過報告書

1 派遣の概要

- (1) 都道府県名：和歌山県
- (2) 二次医療圏名：新宮医療圏
- (3) 派遣先医療機関開設者名：新宮市長 佐藤春陽
- (4) 派遣先医療機関名：新宮市立医療センター
- (5) 派遣先医療機関の所在地：新宮市蜂伏18番7号
- (6) 派遣元医療機関開設者名：——
- (7) 派遣医師所属医療機関名：——
- (8) 派遣期間：平成19年9月1日より6ヶ月間
- (9) 派遣された診療科名、及び人数 産婦人科1人

2 派遣先医療機関の現況及び医師派遣の効果

年間約400件の分娩を取り扱っているが、産婦人科医師2名中、1名の医師が本年9月末で退職することを受け、10月以降の分娩の休止を発表。

しかし、今回の派遣を受けて、引き続き分娩を取り扱うこととした。

3 派遣医師の診療状況等

本年9月1日付け着任 同月18日手術立会、20日外来診察開始
10月より週2回（半日1回、1日1回）の外来を担当

4 都道府県の支援策

- ・ 三重県、奈良県との県境地における医療連携を協議
- ・ 各医療圏における医療機能分担、資源の集約を協議
- ・ 関係大学への医師派遣要請ほか連絡調整
- ・ 当該医療圏ワーキングチームにおける病院連携の検討
- ・ 地域医療アドバイザーの派遣要請

5 医師確保策の実施状況

1) 新宮医療センター

- ア 関係大学への医師派遣要請
- イ 個人産婦人科医と面会、勤務依頼
- ウ 和歌山市内病院産婦人科を訪問、医師派遣要請
- エ 個人産婦人科医にかかる情報収集

- オ インターネットによる医師募集（病院HP、県HPほか民間サイト5件）
- カ 産科関係医師手当の増額

2) 県及び医療対策特別委員会

ア 医療対策特別委員会（医療対策協議会）

本年6月25日、8月22日

イ 地域医療支援調整委員会（県立医大との協議）

本年7月18日、10月1日

ウ 三重県、奈良県と県境地における医療連携について協議

エ 各医療圏における医療機能分担、資源の集約について協議

オ 関係大学への医師派遣要請ほか連絡調整

カ （新宮医療圏）医療体制検討委員会ワーキングチームにおける病院連携等の検討

キ 地域医療アドバイザーの派遣要請

《協議内容等》

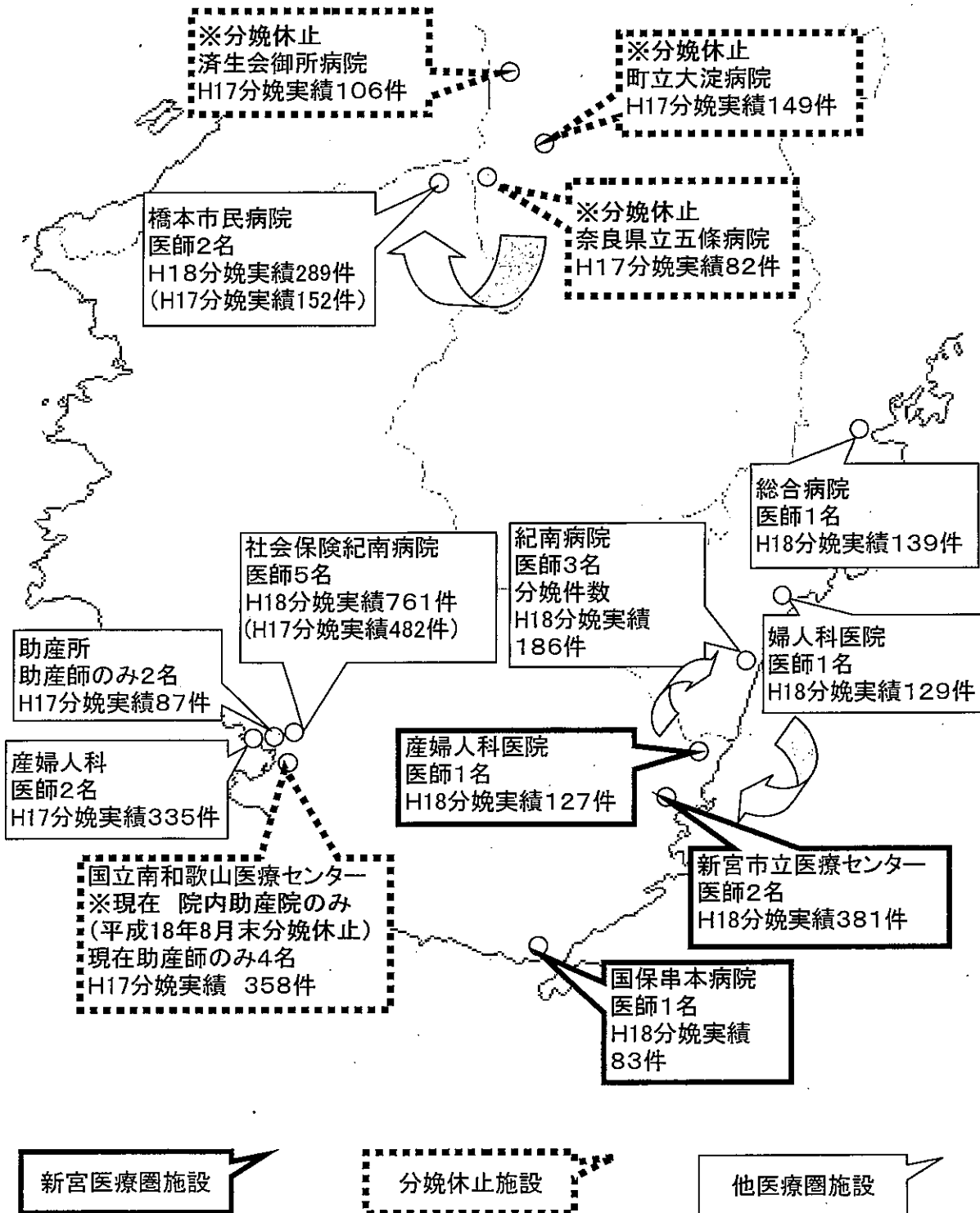
【産婦人科について】

- 1 新宮医療圏においては、新宮医療センターの分娩機能を維持することが必須。（年間約400件に及ぶ分娩の受入機関が無い。）関係大学からの更なる医師派遣が困難な中、県においても個人産婦人科医と連絡、協議中。

【その他の医療機能について】

- 2 救急機能については当該病院と地域診療所とが連携（当直の分担）するとともに、県・国においても支援。
- 3 当該病院が当該医療圏の中核病院として急性期医療を担い、他の近隣病院については、初期医療及び療養機能に特化するなど機能の分担、見直しを検討。
- 4 県下各医療圏においても、病院間の機能分担及び連携を協議、モデルケース的な取組について検討中。

新宮医療圏ほか県境地域分娩施設体制図



緊急臨時的医師派遣経過報告書

1 派遣の概要

- (1) 都道府県名：大分県
- (2) 二次医療圏名：竹田直入保健医療圏
- (3) 派遣先医療機関開設者名：社団法人竹田市医師会
- (4) 派遣先医療機関名：竹田医師会病院
- (5) 派遣先医療機関の所在地：大分県竹田市大字拝田原448番地
- (6) 派遣元医療機関開設者名：学校法人日本医科大学
- (7) 派遣医師所属医療機関名：日本医科大学付属病院
- (8) 派遣期間：平成19年8月1日～平成20年1月31日 6月間
- (9) 派遣された診療科名及び人数：救急（内科）、1名

2 派遣先医療機関の現況及び医師派遣の効果

内科医師3名の退職により、常勤内科医師1名となったため、6月1日以降、救急告示を取り下げている。

今回の派遣により、平日診療時間内の救急患者を受け入れられるようになった。

また、今回の派遣に係る新聞記事を見て、自ら応募いただいた内科医師1名を採用し、現在、常勤内科医師は2名となっている。

救急告示は、常勤内科医師が安定確保されてから再開することとしている。

3 派遣医師の診療状況等

月曜～木曜・土曜（午前中）の救急外来診療及び救急外来診療に伴う入院患者診療

4 都道府県の支援策

- ・派遣元医療機関との派遣形態に係る調整
- ・派遣元医療機関が派遣先医療機関を事前に現地調査することの支援
- ・隣接する大野地域保健医療圏内の救急病院と医療連携を協議
- ・地域医療アドバイザーの派遣要請

5 医師派遣決定後に実施した医師確保策等

(1) 竹田医師会病院

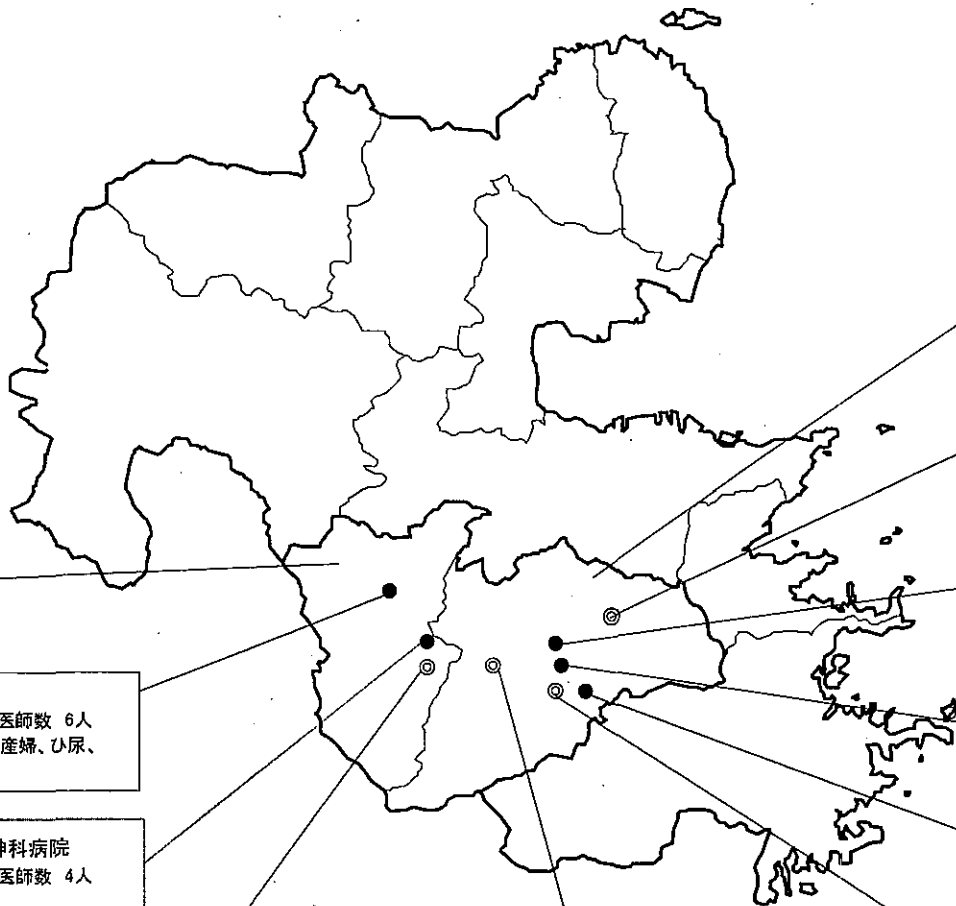
- ・ 関係大学医局のアドバイスを受け、医師派遣に繋がる環境づくり。
- ・ インターネットによる医師募集（病院HP、県HP、民間医師募集サイト）
- ・ 9月末に、民間医師募集サイトを通じて問い合わせがあり、現在、交渉中。
- ・ 病院勤務医師の勤務環境改善のため、看護師等との業務分担を見直すとともに、医師会開業医との連携体制の見直し。

(2) 県及び地域医療対策協議会

- ・ 「ドクターバンクおおいた」（無料職業紹介所：県医務課内）を通じた医師募集活動の継続
- ・ 「地域中核病院医師研修支援事業」（一定期間、地域中核病院で勤務した医師が、国内外の研修を行う際の研修費用の一部を支援する）により、地域中核病院での勤務の魅力づくり。
- ・ 隣接する大野医療圏内の救急病院と連携し、輪番制による二次救急医療提供体制の確保の検討
- ・ 広域救急搬送体制の整備（防災ヘリに医師が同乗して救急患者を搬送する体制の整備）

大野地域・竹田直入地域医療圏内の病院の状況

(注) 人口:平成17年10月1日国勢調査
 面積:平成16年10月1日国土地理院調査
 医師数:平成16年12月31日 医師・歯科医師・薬剤師調査



大野地域
 人口 50,554人
 面積 742.55km²
 医師数 85人

大分県立三重病院(三重町)
 165床(一般) 常勤医師数 16人
 内科、呼吸、消化、循環、小児、神内、外科、整形、眼科、皮膚、泌尿、肛門、リハ

藤島第一病院(三重町)
 48床(一般20、療養28) 常勤医師数 4人
 内科、呼吸、消化、循環、小児、外科、整形、肛門、リハ、放射

福島病院(三重町)
 60床(一般) 常勤医師数 5人
 内科、呼吸、消化、循環、小児、外科、婦人、リハ

みえ記念病院(三重町)
 40床(一般) 常勤医師数 3人
 内科、呼吸、消化、循環、小児、神内、リウ、外科、整形、肛門、リハ、麻酔

岡本病院(三重町)
 70床(一般) 常勤医師数 3人
 内科、呼吸、消化、胃腸、循環、外科、整形、肛門、リハ、歯科

竹田直入地域
 人口 26,534人
 面積 477.67km²
 医師数 46人

大久保病院(久住町)
 133床(一般87、療養46) 常勤医師数 6人
 内科、胃腸、循環、外科、整形、産婦、泌尿、肛門、リハ、麻酔

加藤病院(竹田市) *精神科病院
 212床(精神) 常勤医師数 4人
 内科、精神、心内、皮膚

竹田医師会病院(竹田市)
 160床(一般84、療養72、感染4) 常勤医師数 6人
 内科、呼吸、胃腸、循環、小児、精神、神経、外科、整形、婦人、眼科、皮膚、リハ、放射、麻酔

公立おがた総合病院(緒方町)
 148床(一般104、療養40、感染4) 常勤医師数 12人
 内科、小児、外科、整形、脳神、眼科、耳鼻、泌尿、皮膚、リハ、放射、麻酔